



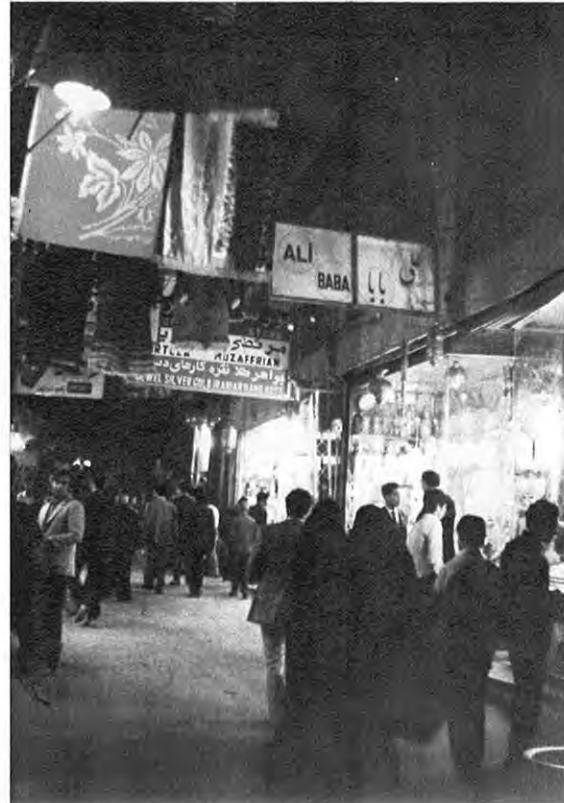
▲明るく、人なっこいイランの子供達 (テヘラン郊外じゅうたん干場で)



▲湧泉—じゅうたんの洗い場(イラン)



▼商売は仲々コスイ…国産金庫(イラン)



◀夜のバザール、アリババの看板が面白い(イラン)

いままでは、本県の貿易は地理的、歴史的に東南アジアとの関係が非常に深く、貿易政策の重点をこの地域において来ましたが、その目的は、本県の輸出品の中近東への進出への可能性と進出について如何に取組むべきかということに重点を絞りました。

本年度は、貿易協会を中心とする業界の方々から一歩進めて販路の開拓をやりたいたいという意見が非常に強かったため、オーストラリア見本市参加と共に中近東市場調査が重点事業として取りあげられました。それで今回調査に行つて参りましたが、その目的は、本県の輸出品の中近東への進出への可能性と進出について如何に取組むべきかということに重点を絞りました。

一口に中近東といっても二十一ヶ国、面積は千五百万平方キロメートルで日本の四十倍、人口一億九千万人で一・九倍西欧、共産圏、アフリカ、アジアの四地区を結ぶ接点です。

人種的にはトルコ、イランを除きアラブ民族でこの中に紛争の発火点であるユダヤ民族の国、イスラエルがあります。この国の外、ヨルダン、シリアは、国防費に予算の五〇%を、エジプト、リビア、サウジアラビアが三〇%を支出しているため、経済発展の大きな阻害要因となっています。

中近東と言えば「石油」というイメージのとおり、日本の原油輸入の八八%はこの地区からですが、産油国と非産油国では経済的格差が大きく、工業化又は経済開発に大きな差異を生じています。

今回調査した国は、産油国ではイラン、非産油国ではレバノン、エジプトですが、国別に本県の輸出品の進出の可能性を検討したいと思います。

一 イラン

国土は日本の四・四倍、人口三千万人、自主独立の王国で人種的にもアラブ諸国と異り、中東戦争にも関与せず、昨年の経済成長率一四%と世界有数の伸びを示した政治的にも経済的にも最も安定した国です。

わが国の原油輸入量二億二千万キロリットルのうち、四〇%を占め、石油

# 中近東市場調査報告

安田 一敏

車の輸出が最近相当量まとまりつつあるようですが、小松製作所の進出に見られるように有望でしょう。

(a) 防火板化粧板など 商社内で非常に興味を持たれているもの一つです。

(b) ブロックマシン テヘランは練瓦ですが、カスピ海沿岸の二百キロメートルに亘る海岸線にある建物はブロックを使用しており、セメントブロックは手造りで機械が利用されていません。

(c) 薬品関係 欧州からの輸入が多く、現地に合併工場もあり、日本の薬品は非常に少ないようですがこの国民は薬を非常に愛用するので、判り易い説明書を添えて交渉されたら案外可能性があるようです。

(d) 肥後象嵌、竹製品、ふりかけ類 量的には限定されるようです。

(e) 技術協力 工業化促進のため中堅の熟練労働者が必要のため、相当数が欧米に留学しているが、彼らは留学後欧米並みの生活様式を要求するので実情に

合わないといっており、本県の海外技術研修生の受入制度のような養成機関を期待しているようです。

(3) 企業進出 進出企業は出資比率五〇%の合併会社でリスクは全て相手国が負い、利益は折半です。

日本企業の進出も相当活発ですが、特に中小企業で徳島のサンダル工場は現地企業との提携で成功している例です。

二 レバノン 人口二百八十万人の小国ですが、シナガポールのような地中海の商業、貿易、観光、金融の中心地で、情報も集まるため日本の商社も支配人級を配置して中東地区を統轄させております。

しかし、競争がはげしいため、先ず価格面で一定条件を充たさねば品質が良くても話に乗って貰えない状況です。本県の輸出の可能性は非常に大ですがイラクなどの周辺地区にも進出対象を拡げるべきでしょう。

三 エジプト 人口三千万人を有するアラブ最大の国で、中東問題を論ずるにエジプトを抜きには考えられません。しかし、軍備の増強、外貨不足で取引きは余程条件が良くない限り困難でしょう。現段階では貿易面での進出はほとんど不可能に近い状態です。

(商政貿易課係長)